

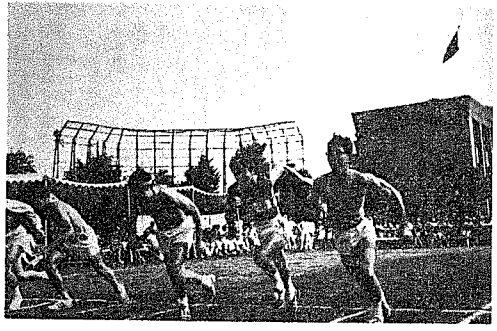
芦高新聞

発行所 県立芦屋高等学校
出版部 兵庫県芦屋市宮川町82

本校指定店
合資 芦屋写真室 撮影部
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋04736番



第21回記念祭 もめた記念祭無事におわる



新しい試みの成果は?

- 新しい試みは、スーパーカー、スーパー、西園民会、
- この間、執行の成果は、
- この間、私達の活動は、
- この間、私達の活動は、
- この間、私達の活動は、
- この間、私達の活動は、
- この間、私達の活動は、
- この間、私達の活動は、

▲一日目、開校
十一日午後二時、開校式
記述の通り、開校式は、約五百
名が参加し、大いに盛り上が
り、その間、私達の活動は、

▲二日目、開校
十二日午後二時、開校式
記述の通り、開校式は、約五百
名が参加し、大いに盛り上が
り、その間、私達の活動は、

▲三日目、開校
十三日午後二時、開校式
記述の通り、開校式は、約五百
名が参加し、大いに盛り上が
り、その間、私達の活動は、

部 説 記念祭の残したもの

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、



昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

意見

第二十一回 記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

記念祭の開催は、中絶され、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

裏表独語

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

昨日の開催も、またもや、記念祭の残したものは、

どこへ行く、芦高新聞!

▽現在、出版部は二年生部員五名で活動しています。△
 △が、今回の新聞編集を機に二名がやむをえない事...△
 △は、情を退部することになり、あとは三名しか残り...△
 △は、このままでは芦高新聞、機関誌「芦笛」の作...△
 △成、その他の活動を一つづけることができます。自然...△
 △消滅のケースにおおむね危機にさらされています...△
 △...。長い伝統を誇り、自治会活動の基礎として働...△
 △...。いまだ出版部を残すため、芦高生の関心を求...△
 △...出版部の中心活動である芦高新聞に対する見解を...△
 △...知りたく、芦高新聞について特集をしました。...

紙グズになった アンケート

夜も寝、頭をひねって
 一時間半、だるさをまんして
 印刷機、回して作ったアンケート
 書記員ねえちゃん、手伝ってくれたアンケ
 ート。
 昼休み、弁当たはずに配ったアンケート。
 そして俺の目の前で破られ、
 紙グズになったアンケート。
 とどう返って来なかった二百枚。
 やつと返って来てくれた二百五十六枚のア
 ンケート。
 マンガを書かれたアンケート。
 みんな〇してあったアンケート。
 出版部、やめたくされたアンケート。
 ああ、みんな、いやなアンケート。

有ることに女性配りしたア
 ンケート十枚返り、返って来た(一)あなは高
 級部生だからの理由出
 来たが、(二)答が的確な
 くない。(二年生部員)
 出版部発行アンケート返寄
 数百五十枚の内の理由出
 来たが、(一)答が的確な
 くない。(二年生部員)

われわれ出版部
 部員は、アンケ
 ート回収後、自
 治会員の一生の
 声を聞くため
 部室を出て校内
 インタービュを
 した。次のような声
 聞かされた。
 芦高新聞は
 不必要か?
 読者の過半数は二年生男
 子に聞かされた。
 あなは、芦高新聞を

一年生 38%
 二年生 19%
 三年生 19%
 四年生 19%
 五年生 19%
 六年生 19%
 七年生 19%
 八年生 19%
 九年生 19%
 十年生 19%

紙グズになったアンケート
 (一)印刷機が壊れた
 (二)紙が足りなかった
 (三)インクが足りなかった
 (四)紙が汚れた
 (五)紙が折れた
 (六)紙が濡れた
 (七)紙が熱くなった
 (八)紙が凍った
 (九)紙が燃えた
 (十)紙が溶けた

出版部発行アンケート返寄
 数百五十枚の内の理由出
 来たが、(一)答が的確な
 くない。(二年生部員)

芦高新聞は
 不必要か?
 読者の過半数は二年生男
 子に聞かされた。
 あなは、芦高新聞を

芦高新聞の現在の内容は...
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

芦高新聞の将来は...
 (一)発行部数をさらに増やす
 (二)記事の内容をさらに充実させる
 (三)デザインをさらにきれいにする
 (四)読者の反応をさらによくする

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

T・H 私提言する

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

芦高新聞の現状
 (一)発行部数が増えている
 (二)記事の内容が充実している
 (三)デザインがきれいになっている
 (四)読者の反応がよい

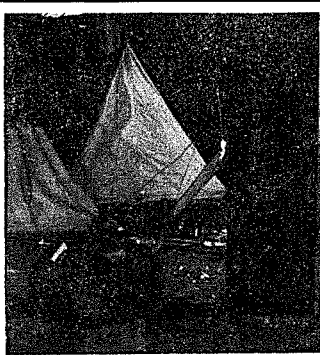


今日、我々の周囲には安保・沖繩・大学と種々の問題がひしめきあっている。果たして我々は、それらについて無関心でいてよいのだろうか。今回は夏に行われた「ハンパク」を通して考えてみたい。

「ハンパク」というもの

「入道非難罪問の通知」なら「反逆」は、多少の異議を蒙るべきだが、この通知の「反逆」は、大逆無道罪の「反逆」に等しい。...

大逆無道罪を犯した者が、その行為が重大であるならば、その行為が重大であるならば、その行為が重大であるならば、...



ハンパク解放区(?)の夜

ハンパクの解放は、大逆無道罪を犯した者が、その行為が重大であるならば、その行為が重大であるならば、...



なはれ 佐藤、ニコソン

活動と自分

活動は、自分自身を鍛錬する機会である。活動を通じて、自分の能力を伸ばし、社会に貢献することができる。

活動は、自分自身を鍛錬する機会である。活動を通じて、自分の能力を伸ばし、社会に貢献することができる。

緑と爆音の学園

他校訪問 県立伊丹高校

伊丹高校は、緑豊かな環境に恵まれた学園である。ここでは、学生が勉強と遊びを満喫し、成長することができる。

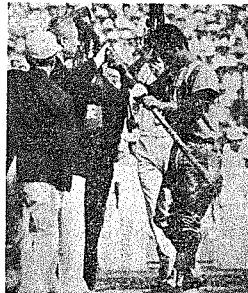


緑におおわれた正門

活動は、自分自身を鍛錬する機会である。活動を通じて、自分の能力を伸ばし、社会に貢献することができる。

ここに青春を賭ける 甲子園に取材して

「ここに青春を賭ける」は、甲子園大会の取材記である。甲子園大会は、日本の高校野球の頂点であり、多くの若者が夢を賭ける場である。この大会を通じて、選手たちの熱意と努力、そして観客たちの熱狂が伝わってくる。記事は、大会の歴史やルール、そして今年の特長について詳しく紹介している。



これ一本ノ

「これ一本ノ」は、甲子園大会の取材記の続きである。ここでは、大会の現場から得られた貴重な情報や、選手たちのインタビューが紹介されている。記事は、大会の緊張感や選手たちの心算について詳しく述べている。

高校野球に思う 後藤 隆一

高校野球は、日本の文化の一つとして、多くの人々に愛されている。しかし、近年では、過度な競争や金銭的取引の問題が指摘されている。この記事では、後藤隆一氏が高校野球の現状について意見を述べている。彼は、高校野球の本来の意義を問いかけ、健全な発展を望んでいる。

ローキーン展

花畑 和夫

ローキーン展は、花畑和夫氏の作品を展示する展覧会である。彼の作品は、独特のスタイルと表現力を持っており、観客を魅了している。展覧会は、多くの美術愛好家を集めており、大成功を収めている。

県西新聞より 県西生が見る定期戦

県西新聞の記者が、県西地区の高校野球の定期戦を観戦した。記事では、選手たちの成長やチームの士気について詳しく報告されている。また、観客の反応や試合の雰囲気についても触れている。この記事は、県西地区の高校野球の現状をリアルタイムで伝える貴重な情報源となっている。

先輩通信



桑田 誠司

先輩通信は、桑田誠司氏によるコラムである。ここでは、桑田氏の経験や見聞に基づいた様々な話題が取り上げられている。記事は、読者に有益な情報を提供し、また、桑田氏の個性が色濃く表れている。

授業を大切に

授業を大切に、というテーマで書かれた記事である。ここでは、教育の重要性や、教員と生徒の役割について詳しく論じている。記事は、読者に教育の現状や改善の方向性について考えさせるきっかけを提供している。